

【序章】危機感の打破とプロフェッショナルの視点確立

【ワークの目的】

「受賞歴がないから売れない」という絶望を「仕組みと文脈の欠如」という課題に置き換え、魂の自由を手に入れるためのプロフェッショナルな視点を確立します。

【Q1：仕組みによる意識の書き換え】

(AIワーク1：課題の特定と打破の結果を受けて)

AIが提示した「現状に陥る原因と具体的なToDo」を読み返してください。

- これまで「才能がない」「評価されない」と自分を責めていた悩みは、実は単に「作品を届ける仕組みと文脈」がなかったただだと気づいたとき、あなたの胸の中にある「制作への不安」はどう変化しましたか？
- 提示されたToDoの中で、あなたがこれまで「表現者（アーティスト）」としての誇りから無意識に避けていた「経営者・プロデューサー」としての実務は何ですか？それを「作品の世界観を守るための防壁」と捉え直したとき、明日からどのような一歩を踏み出したいか具体的に書き出してください。

【Q2：学芸員視点による価値の再定義】

(AIワーク2：第三者視点による権威ある紹介文を受けて)

美術館の学芸員が執筆したような、あなたの紹介文を読んでください。

- その文章の中で、あなた自身が「これこそが私の表現の本質だ」と深く納得し、魂が震えた一節はどこですか？

- 客観的な視点（審美眼）によって言語化されたあなたの価値を、アートに詳しくない一般のファンにも「自分に必要な物語」として届けるために、あなたはこれからSNSという「オンライン美術館」で、どのような言葉を使って作品を語り始めますか？

【Q3：理想の未来と社会への貢献】

（AIワーク3：理想の未来を小説化するの結果を受けて）

月商を達成し、専業作家として生きている理想の1日のシーンを思い出してください。

- 経済的な自由を得て、穏やかな感情で満たされているあなたは、その溢れ出たエネルギーを使って、具体的に「誰に」「どのような救いや豊かさ」を提供していますか？

- あなたが「稼ぐこと」に成功し、プロとして自立し続ける姿は、かつてのあなたのように悩んでいる他のクリエイターや、あなたの作品を待っている社会に対して、どのような「希望の光」になると確信していますか？

【本日のプロフェッショナル宣言】

風茜の教えと本日の内省を経て、あなたがプロとして一生守り抜くと決めた信念を清書してください。

「私は、学芸員視点の（ ）を磨き、自らの表現を通じて（ ）
という価値を社会に提供し続けることを誓います」